

## 第549回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和6年5月8日（水）午前11：00より
2. 開催場所 長野放送本社会議室
3. 委員の出席 ○委員総数 8名  
○出席委員数 5名  
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）  
委員長 林 新一郎  
委員 浅井 隆彦  
委員 笹本 正治  
委員 武重 正史  
委員 中山 潔  
○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）  
副委員長 井上 裕子  
委員 加藤 恵美子  
委員 南澤 光弥  
○放送事業者側出席者名  
外山 衆司 （代表取締役社長）  
船木 正也 （常務取締役 編成業務・放送番組審議会担当）  
久保 善一 （取締役 報道制作・企画事業担当）  
西條 彰浩 （報道制作局長）  
早川 英治 （編成業務局長）  
浅輪 清 （編成業務局次長 兼 考査部長  
兼 放送番組審議会事務局長）  
北澤 輝久 （編成業務局編成部長 兼 視聴者室長）  
畷田 哲也 （報道制作局報道部長）  
久保 圭輔 （報道制作局報道部記者）
4. 議題  
(1) 番組審議

『 NBSフォーカス∞信州 学び舎 山あいの小学校最後の1年 』

令和6年4月26日（金）19：00～19：59放送

(2) 視聴者対応報告（令和6年4月分）

(3) その他

## 5. 議事概要

### (1) 番組審議

- ・丹念に長期取材をしてくれた素晴らしい番組だった。
- ・子どもたちの生き生きした姿を撮ってくれたことが素晴らしかった。それを通じて、教育とは何かをしっかりと考えさせられた。
- ・全体として人の心のひだにまで入ってくるような、実に丹念な良い出来の番組だった。
- ・ドキュメンタリーとして視覚だけではなく、心理的にも近い所で対象の方に寄り添っている非常に丁寧に作られた番組だった。
- ・時間を遡って歩んできた歴史というものにもしっかりと踏み込んで、子どもたちや地域住民の本当の姿が彼らの目線で捉えられていたということがすごく印象的だった。
- ・最初の新入生の無言のインタビューの後、彼の違った姿を見て、そのコミュニティに入ったことでの彼の生き生きとした姿が印象的だった。
- ・小学校を維持できない過疎化に抗う術のない無力感みたいなものが、番組全体を通してインタビュー等を通じて伝えられ、大変やるせなく感じた。
- ・インタビューの時、人々の表情を非常にアップで捉えていたことがすごく印象的で、言葉以上の感情がその表情に描かれていた。何故かマスク越しでも表情が伝

わる不思議な感じが、おそらくテレビの醍醐味なのだろうと思った。

- ・都会の学校にはない学年を超えた一体感、また学校を中心とした地域の一体感というのが非常に感じられた。
- ・中山間地、地域に対する一貫した温かい視線というものを、番組を通じて感じ、四季の美しさと共に伝えられたことで、情感豊かに見ることができた。
- ・山あいの四季の風景の中で、地域住民に支えられて、伸び伸びとたくましく、また感受性豊かに育つ子どもたちの様子がとても印象的だった。
- ・地域文化や地域住民との触れ合い、異学年交流での学びと、教育効果を考えても中山間地での学びというのは必ずしも悪いことばかりではないということもよく伝えていた。
- ・小学校というものが地域コミュニティや地域文化の重要拠点であることを改めてリアルに考えさせられた番組だった。
- ・小学校がなくなるということが、どんなに地域の人々の気持ちを落胆させ、希望をなくさせるかということを感じた。学校がなければ住まなくなるとか、小学校のない地区は想像ができないといった住民の言葉は本当に重く響いた。
- ・過疎化がますます進行すると、個人の生き方も選択の幅が狭められた社会になって行く可能性が、もうすぐそこに見えているということを実感するような番組だった。
- ・日本の文化をどういう風にして持続して行くかということを考えていかねばならない大きな要素だと思う。そういったことを改めて自覚させていただいた良い番組だった。
- ・何が子どもにとっての教育の目指す姿なのかという辺りが、投げかけられているのかなという思いも感じた。
- ・この廃校を抗えないものとして捉えた時に、それに対して悲しみだけで終わってしまうのではなくて、こうやって前向きに向き合うこと。その提言をしている非

常に有意義な番組だった。

- ・人口減少は日本や地方をどう維持するかという難しい局面だと思う。意識醸成と  
いうか問題提起をああいう柔らかい形でやっていただいた。しかも心に迫るもの  
があったという意味で意義が大きい番組だった。
- ・全体の構成も中盤からは親への手紙とか、かなり涙を誘うような場面も作りなが  
ら最後は次への希望というか明るい感じで終わらせていて全体的にも良かった。
- ・エンディングの場面で、テロップだけで学校の減少とこれからの予定をスーッと  
流した。ジーンとしながら見終わった後、何ができるのだろう、これから何をし  
なければいけないのだろう、というようなことを思った。
- ・それぞれ地域の小学校に転校した子どもたちがどんな学校生活を送っているか、  
そこまで追求したら面白かったのではないのかなとも思った。

## (2) 視聴者対応報告（令和6年4月分）

資料に基づき、令和6年4月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

## (3) その他

### 配布資料

- ・第548回番組審議会（令和6年4月）議事録
- ・視聴者対応報告資料（令和6年4月分）
- ・モニターレポート
- ・BPO報告（NO. 262、263）
- ・民間放送（第2226号）

以 上